

安全データシート

作成日 2002年9月1日
改定日 2010年5月1日
2015年2月2日

製品名 : PAC(ポリ塩化アルミニウム)

製品及び会社情報

製品名 PAC(ポリ塩化アルミニウム)
会社名 埼玉薬品株式会社
住所 埼玉県さいたま市見沼区卸町1-43
電話番号 048-686-5221
FAX番号 048-686-3332
整理番号 AHM-1017

危険有害性の要約

GHS分類 : 公表なし
有害性
重篤な損傷性/刺激性 : 区分2B「警告」
危険有害性 : 軽度の眼への刺激

組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品
化学名(又は一般名) : ポリ塩化アルミニウム(PAC)
濃度又は濃度範囲 : Al₂O₃として 10.0~11.0%
化学式 : Al₂(OH)_nCl_{6-n} (但し0<n<6)
CAS No. : 1327-41-9
官報公示整理番号 : 1-12、1-17

応急処置

吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所へ移動し、必要に応じて医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合 : 水および石鹸を用いて付着部を洗い流す。
目に入った場合 : 清浄な流水で15分以上洗浄し、必要に応じて眼科医の診断を受ける。
飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ1~2杯の水または牛乳を飲ませる。
: 直ちに医師の診断を受ける。

火災時の措置

消火剤 : 不燃性のため周辺火災に適合した消火剤。
特有の危険有害性 : 高温で分解して、塩化水素ガスを発生する。

漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 漏出時の処理を行う際には、保護具を着用する。
環境に対する注意事項 : 盛土などで囲って河川、水田への流出を極力防止する。万一大量に流出し一般市民、水棲生物への影響が懸念される場合には、直ちに
関係官庁、供給者に連絡する。
除去方法 : 流出物はできる限り空容器に回収し、回収不能分については消石灰
炭酸カルシウム、ソーダ灰などを用いて中和する。

取扱い及び保管上の注意

取扱い : 漏洩の防止、接触、吸入防止のために保護具を着用する。
保管
保管条件 : 高温で分解、白濁することがあるので、直射日光の当たる場所や高温の場所
での保管は避ける。ポリ缶など小分け容器での長期保管は避ける。

	: 希釈して保管しない。
	: 他の薬品と混合すると、沈殿が発生する場合があります。
	: 保管タンクは液が滞留しがちで沈殿物が析出しやすいので、定期的に清掃する。
容器包装材料	: 酸性の液体であるため、鉄およびステンレス材質に対して腐食性がある。 : 塩化ビニール、ポリエチレン、FRP、ゴムライニングなど必要な強度を持った耐酸性の容器に保管する。

暴露防止措置

許容濃度	: 日本産業衛生学会勧告値 記載なし : ACGIH勧告値 該当なし
設備対策	: 安全シャワー、手洗い、洗眼設備など必要に応じて設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 必要に応じて着用
手の保護具	: 耐酸性(ゴム製)の手袋
目の保護具	: 保護眼鏡、顔面シールド等
皮膚及び体の保護具	: 必要に応じて着用

物理／化学的性質

外観等	: 無色～黄色がかったうすい褐色透明の液体
臭い	: 無臭
凝固点	: -12～-20℃
沸点	: 102～106℃
比重	: 1.2以上(20℃)
溶解度	: 水に任意の割合で混合

安定性及び反応性

安定性	: 通常の保管では安定である。希釈またはアルカリ添加によりpHを上げると白濁し後に沈殿物を生成する。
危険有害反応可能性	
避けるべき条件	: 弱酸性液のため保管時は鉄などの酸性腐食容器を使用しない。
混触危険物質	: 次亜塩素酸塩類(次亜塩素酸ソーダ、漂白剤、サラシ粉、カルキなど)と混合、接触すると、有毒な塩素ガス(Cl ₂)を発生する。
危険有害な分解生成物	: 高温で分解し、有害な塩化水素ガス(HCl)が発生する。

有害性情報

急性毒性	: マウス LD50(経口) = 12,790mg/kg(72hr) : マウス LD50(腹腔) = 1,920mg/kg(72hr)
(注)LD50(50%Lethal Dose)試験動物の50%が致死する体重1kg当たりの投与量	
皮膚腐食性／刺激性	: 皮膚に軽度の刺激
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: 目に軽度の刺激
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: なし
生殖細胞変異原性	: エームス試験で陰性
発がん性	: データなし
生殖毒性	: データなし
特定標的臓器・全身毒性	: データなし
吸引力呼吸器有害性	: データなし

環境影響情報

生体毒性	
魚毒性	: 1) pH未調整の場合(使用濃度: 有姿) ヒメダカ TLm = 840ppm/48hr

アサリ	TLm = 6,800ppm/48hr
ノリ	TLm = 1,500ppm/48hr
:2)pH調整(中性)の場合(使用濃度:有姿)	
ヒメダカ	TLm = 10,000ppm/48hr
アサリ・ノリ	TLm = 10,000ppm/48hr

(注)TLm(Median Tolerance Limit)試験魚の50%が致死する濃度

残留性・分解性	:加水分解により水酸化アルミニウムを生成する
生体蓄積性	:データなし
土壤中の移動性	:加水分解により水酸化アルミニウムを生成する

廃棄上の注意

残余廃棄物	:消石灰、炭酸カルシウム、ソーダ灰などを加えて中和した後、廃棄する。 :廃棄の際は「廃棄物処理法」「水質汚濁防止法」など関係法令を順守する。
汚染容器及び包装	:水洗した後、適切に廃棄する。

輸送上の注意

国際規制	:該当なし
輸送時の安全対策及び条件	:海上輸送の際、船舶より排出してはならない。また輸送時は取扱い・保管上の注意を守り、強度を有した耐酸性の容器にて運搬する。

適用法令

労働安全衛生法	:第57条の2、施行令第18条の2、別表第9 名称等を通知すべき有害物質(NO.37 アルミニウム水溶性塩)
海洋汚染防止法	:施行令別表第1の有害物質(Z類NO.103 ポリ塩化アルミニウム溶液)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)、消防法、毒物劇物取締法、高圧ガス保安法	:該当なし

引用文献

本MSDSは、「JIS Z 7250 化学物質等安全データシート(MSDS)第1部:内容及び項目の順序」に基づいて作成した。

- 1)製品評価技術基盤機構より公表されるGHS分類対象物質
- 2)日本無機薬品協会ハンドブック部会のスタンダードモデルに準ずる
- 3)日本産業衛生学会雑誌 許容濃度の勧告(2007)
- 4)ACGIH-化学物質と物理因子のTLV・化学物質のBEI(2008)
- 5)長崎大学薬学部「ポリ塩化アルミニウム、PAC-250Aの急性並びに亜急性毒性試験成績」報告書(1975. 4)
- 6)中央労働災害防止協会・日本バイオアッセイ研究センター「微生物を用いる変異原生試験報告書 NO.6092 (1999. 12)」
- 7)(財)日本食品分析センターの試験報告書 第OS-7110309-1号~3号

その他

- ・記載内容の取扱い
全ての資料や文献を調査したわけではないため情報洩れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合には、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。
なお、記載のデータや評価に関してはいかなる保証もなすものではありません。また、記載事項は通常取扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。製品の譲渡時にはMSDSを添付して下さい。

